

## 令和元年度黒潮町総合防災訓練

9月1日(日)、南海トラフ地震による大規模災害を想定し、町内全域で黒潮町総合防災訓練が実施されました。

同訓練は、災害時における避難経路や避難場所の確認など、防災に関する知識を各自が高める目的で、地区の避難場所に避難する住民避難訓練の後、各地区で自主防災組織による勉強会や救護訓練、防災器具の点検などが行われ、町民約4千人が参加しました。

佐賀地域では、訓練開始前に佐賀中学校の生徒が1人暮らしの高齢者を訪問し、訓練への参加を呼びかけました。訪問された女性は、中学生のサポートを受け車椅子で避難訓練し、「足の調子が良くないので助かる」と話しました。

横浜地区では、被災後に1次避難所となる「黒潮町通所介護事業所鹿島ヶ浦」と福祉避難所となる「かしま荘」を住民らが見学しました。参加者は避難時に各部屋をどう利用するかを確認し、その後、避難所運営にあたり自分たち何ができるかを話し合いました。村越豊年区長は、「今日見学したことで安心できる部分も増え

たと思う。まずはタワーに逃げるなど命を守り、避難所では自分ができることをして助け合うということをしてほしい」と話しました。



避難のサポートをする中学生(町分地区)



避難所での話し合い(横浜地区)



心肺蘇生法講習(入野本村地区)

## 田ノ口小ホエールウォッチング授業

9月18日(水)、田ノ口小学校の4年生9名がホエールウォッチングの授業を行いました。

同授業はふるさと・キャリア教育の一環として、陸からの景色だけでなく「海からみる黒潮町」を目にすることで、見える景色が変わることを実感し、学んでほしいという思いで町教育員会が主催しました。

9月5日(木)には、児童らが砂浜美術館を訪問し、担当者にクジラについて質問するなどして事前授業を行いました。

船は入野漁港から1時間30分ほど沖に進み、鳥山などを目当てに児童らは目を凝らしながらクジラなどを探しました。

参加したハジイフ琉馬さんは、「クジラは見られなくて残念だっ

たけど、トビウオがたくさん見えた。海から見た黒潮町は砂浜が長くて、とてもきれいだっ」と話しました。



出港直後の児童ら

## AMD Aと中高生の交流

8月31日(土)・9月1日(日)の2日間、岡山県に本部を置くボランティア団体「認定特定非営利活動法人AMD A」の中学高校生会14名が黒潮町を訪問し、町内の中高生と交流しました。

同取組は、町とAMD Aが「大規模災害時における支援に関する協定」を結んだことがきっかけとなり、災害が起きる前から交流を持とうと平成29年から実施され、今回が3回目です。

初日は佐賀中・大方中・大方高校の代表15名が参加し、生徒らはそれぞれの防災への取組について発表したり、防災食作りを体験しました。また2日目には、AMD Aのメンバーが浜の宮地区の総合防災訓練に参加し、避難経路の確

認や炊き出し訓練などを通し生徒や住民らと交流を図りました。



防災食作りを体験する生徒ら